

令和5年3月8日

## 日本におけるアート振興の新たな推進拠点 独立行政法人国立美術館『国立アートリサーチセンター』設立について

文化庁が所管する独立行政法人国立美術館は、日本におけるアートの持続的な発展と国際展開を可能とする仕組みの確立を目的に、アート振興の基盤整備と国際発信に持続的に取り組む日本初の総合的な専門組織として、「国立アートリサーチセンター (National Center for Art Research、略称：NCAR)」(センター長：片岡真実) を令和5(2023)年3月28日(火)、法人内に設立します。

グローバル化の進展や SDGs の下での持続可能な社会の模索など、国際社会が大きく変動する中で、世界のアート界やアートの文脈も大きな変化を遂げており、日本としてはアジア各国との協働を進めるなど、世界との新たな関係を構築しながら、日本のアートの価値を力強く発信し、その国際的な評価を高めていくことに取り組む、これまでとは次元の異なる振興策が必要となってきました。

このような状況を受け、文化庁では、2018(平成30)年度から、日本の現代アートの持続的な発展を目指し、国際的な評価を高めていく取組を推進する「文化庁アートプラットフォーム事業」を5年間にわたって展開してきました。当事業では、日本の現代アートの情報プラットフォーム「アートプラットフォームジャパン (<https://artplatform.go.jp/ja>)」を構築・運営し、「全国美術館収蔵品サーチ「SHUZO」」「日本の現代アートに関する未英訳の重要なテキストの新訳・公開」「リサーチプロジェクト」の3つを軸に、日本における現代アートの今後の発展に向けた土台づくりを進めてきたところです。

今般設立される NCAR は、文化庁がこれまで進めてきたアートプラットフォーム事業の5年間の成果を継承・発展させる拠点となるものであり、まさに次元の異なる振興を実現する組織として設立されるものです。

また、NCAR の設立は、独立行政法人国立美術館の抜本的な強化という、政府方針を体現するものであり、アートの重要性が格段に増している我が国において、これまでの日本のアート政策に欠けていたアート振興の中核として活動していくこととなります。

<担当> 文化庁 企画調整課

課長 寺本恒昌 (内線 2790)

文化戦略官 林 保太 (内線 2858)

独法一係長 安藤 慧 (内線 4797)

電話：03-5253-4111(代表)、03-6734-4797(直通)

**参考：「文化庁アートプラットフォーム事業」について**

「文化庁アートプラットフォーム事業（英語表記：Art Platform Japan）」は、日本における現代アートの持続的発展を目指し、現代アート関係者の意見を幅広く集約し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進してきました。ステアリングコミティーとして「日本現代アート委員会」を設置し、実践的研究を進めるための国際的な専門家ネットワーク構築に取り組むとともに、日本における現代アートに関する重要なテキストの翻訳やウェブサイト等を活用した国内外への発信、全国の美術館を横断した作品情報のデータベース構築に向けた取り組み、若手作家を含めた日本におけるアーティストの国際な活動を後押しする活動を行ってきたところです。

**【事業内容】** アートプラットフォームの形成につながる以下の取り組みを通じ、我が国におけるアート創造活動の活性化と持続的な発展の実現を目指す。

① 文化庁現代アートワークショップの開催	国際的な専門家の相互ネットワーク構築のための招待制ワークショップ（文化庁現代アートワークショップ）を開催。
② 国際的な評価を高める上で重要なテキストの国際展開に関する取組	日本の現代アートの国際的な評価を高めることにつながるに研究を喚起するため、特に需要が高いと考えられる戦後美術を対象としたテキスト（単行本、評論、学術論文、カタログ寄稿文等）の翻訳、海外での出版や多言語ウェブサイトでの公開等を目指す。
③ 国際的な情報発信を行うウェブサイトに関する取組	海外の専門家から頻繁に指摘されている「日本のアートに関する情報にアクセスすることが難しく、知りたくても手がかりがない」という状況を改善すべく、日本における現代アートに関する情報を国際的に発信するウェブサイトの構築を目指す。
④ 収蔵情報の可視化に関する取組	国内外の専門家が展覧会を企画する際に必要となる情報・資料の国際的な共有財産化に向け、日本全国の美術館に収蔵されている作品情報等に横断的にアクセスできるデータベースの構築を目指す。
⑤ その他の取組	日本における現代アートの国際的な評価を高める上で必要な調査研究の実施 国際的な評価を高める上で重要な機会を得た作家への支援や国際シンポジウムの開催など、我が国現代作家の国際発信を戦略的に推進する取組を実施。

アートプラットフォーム事業の一環として制作・運営してきたWEBサイト

「アートプラットフォームジャパン（Art Platform Japan、略称：APJ）」 <https://artplatform.go.jp/ja/about-this-website>

研究資料（リサーチに活用できる資料やデータベース）	
① <u>全国美術館収蔵品サーチ「SHUZŌ」</u>	日本国内の登録博物館、博物館相当施設等が収蔵する美術品の検索システム。国内外の美術研究者等が特定の作家について調査・研究し、作品の所在情報を収集することを可能にする本格的なシステム。
② <u>英訳文献 日本の現代アートに関する、未英訳の重要なテキストの新訳・公開</u>	日本の現代アートの国際的な研究喚起を目的とし、特に需要が高いと考えられる戦後美術を対象としたテキスト（単行本、評論、学術論文、カタログ寄稿文等）を選定。その英訳を行い、本ウェブサイトにて公開。
③ <u>リサーチプロジェクト</u>	日本国内外の美術館等で行われた現代美術展の開催記録、日本の画廊に関する調査などの調査研究プロジェクト。
<b>プログラム（国際的な専門家ネットワークの構築、国際的に重要な機会を得た作家への支援、シンポジウムなど）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際的な専門家の相互ネットワーク構築のための招待制ワークショップを開催。</li> <li>○ 国際的な評価を高める上で重要な機会を得た作家への支援や国際シンポジウムの開催等を実施。WEBサイト（APJ）でその成果を報告・共有し、現代作家の国際発信を推進。</li> </ul>	